

Title	学内デリバリー・サービス（現物貸借）の運用開始について
Author(s)	
Citation	静脩 (2006), 43(1): 9-9
Issue Date	2006-08
URL	http://hdl.handle.net/2433/37797
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

学内デリバリー・サービス(現物貸借)の運用開始について

京都大学図書館機構では、平成18年3月27日より標記サービス(正式名称:京都大学図書館(室)間デリバリー・サービス(現物貸借))の試行運用を、5月15日より本運用を開始しました。このサービスは、学内図書館(室)間の相互貸借を通じ利用者へ便宜を図るための新たなサービスとして提供するもので、これにより利用者は、借用することが難しかった学内遠隔地図書館(室)の資料を、所属部局図書館(室)等、最寄りの図書館(室)窓口で借用することができるようになりました。このサービスは、「京都大学図書館(室)におけるデリバリー・サービス(現物貸借)運用申合せ」(以下運用申合せ)および「京都大学図書館(室)間デリバリー・サービス(現物貸借)マニュアル」(以下運用マニュアル)に基づき行われます。図書館(室)間の相互貸借をもとに行うサービスであること、配送は学内便で行うこと、貸出冊数および期間は原則として配送期間も含め3冊以内2週間とすること、が主な運用条件となっています。サービスへの参加・不参加は各図書館(室)の判断に委ねられ

ており、8月1日現在の参加館(室)は37館(室)となっています。

学内デリバリー・サービス(現物貸借)は、それまで学内の一部の図書館(室)間で個別合意のもとに行われていた図書資料の配送による貸借を全学的なサービスとして位置づけ定着させることを目指して、平成16年度に図書館職員で組織する業務改善検討委員会・図書館サービス部会により検討が始まり、平成17年度には同部会で「運用申合せ(案)」と「運用マニュアル(案)」の作成・整備が進められました。その後、業務改善検討委員会および図書館協議会第二特別委員会での案の審議を経て、平成18年4月の図書館協議会において両案が承認されたことを受け5月15日より本運用が開始、現在に至っています。

このサービスがまずは学内図書館(室)間に定着し、学内利用者にとってより便利で求められるサービスとして機能していくよう、各方面で見守り工夫を加えつつ発展させていく必要があるでしょう。

(附属図書館情報サービス課)

学内図書館室移転・閉室情報

1. 農学研究科・フィールド科学教育研究センター森林系

農学部総合館の耐震補強等の改修工事が2005年度から4カ年計画により、実施されています。改修工事および準備作業のため、農学研究科の図書室(農学部図書室・生物資源経済司書室・フィールド科学教育研究センター森林系図書室)の利用が制限されますので、簡単にご案内します。

農学部図書室の移転期間は、改修工事6ヶ月間(平成19年7月から平成19年12月)と、引っ越しにかかる期間(改修前2ヶ月、改修後1ヶ月)を含めて約9ヶ月間を予定しています。閉室期間は平成19年5月1日から7月31日までの2ヶ月間と、平成20年1月1日から同月31日の1ヶ月間、合わせて3ヶ月間を予定しています。この期間中は農学部図書室をご利用いただけません。

改修工事中の仮移転先はフィールド科学教育研究センター旧事務室及び研究室の予定です。仮移転先に現在の閲覧室を移設し、利用できる資料は、閲覧室配置図書、新着雑誌・新聞等となります。書庫配置資料(和・洋雑誌バックナンバー等)は全て箱詰めし別置保管予定ですので、ご利用いただくことができません。工事が完了し、準備が整い次第開室いたします。また農学部図書室ホームページでも、その都度お知らせいたします。

生物資源経済学専攻(旧・農林経済学教室)司書室は、平成18年度から3年間の予定で工学部7号館にて暫定的に開室しています。図書・雑誌・各種統計資料等合わせて約12万冊を所蔵しておりますが、仮移転期間が長期にわたるため、箱詰めのままで利用出来ない図書は現在のところありません。た